



2014年度常磐大学同窓会総会
2014年度常磐大学同窓会総会
が6月28日(土)に、常磐大学
O棟センターホールで開催されま
した。

総会の開会にあたり、池田正則
会長(人間科学部1期卒)より「是
非自分の学年ごとに支部を立ち上
げていただいて、総会に少しでも
多くの方に来ていただけるよう
力を入れていただきたいと思います。
おります。」と挨拶がありました。

総会では2013年度事業報告
および決算ならびに入会状況報告
および役員選任について報告が
なされました。続いて2014年
度事業計画および予算について満
場一致で可決され、総会は閉会し
ました。

2014年度

常磐大学同窓会総会・懇親会開催

総会終了後、2013年度に常
磐大学同窓会課外活動奨励金制
度により学生プロジェクト奨励金
の給付を受けた学生団体(4団体)
による、課外活動成果報告会が開
催されました。(詳細は3面参照)

その後会場をO棟内インター
ネットカフェ・ラバツアに移し
て開催された懇親会では、西野光
範副会長(人間科学部2期卒)よ
り「是非本日も臨席いただいた先
生方との思い出話に花を咲かせて
いただきたい。」との乾杯の挨拶
で開会しました。

懇親会には会員42名のほか、教
員5名、報告を行った学生19名の
計66名が参加しました。

なお、当日の様子は、同窓会
ホームページでも紹介しています
ので、是非ご確認ください。



▲森征一常磐大学学長



▲懇親会にて挨拶される
佐藤守弘先生(元人間科学部長)

2013年度 常磐大学同窓会事業報告

1. 会議の開催
 - 1) 総会
 - ・開催日：2013年6月29日(土) 14時30分～15時15分
 - ・場所：水戸三の丸ホテル2階
 - ・出席者：49名
 - ・主な議案等：
 - 【報告】2012年度事業報告、2012年度決算、入会状況報告、役員選出
 - 【議案】2013年度事業計画、2013年度予算
 - ※ 総会終了後に2012年度常磐大学同窓会課外活動奨励金受給者による報告会を実施した。
 - 2) 懇親会(抽選を含む)
 - ・開催日：2013年6月29日(土) 16時00分～17時30分
 - ・場所：水戸三の丸ホテル3階
 - ・出席者：72名
 - 3) 幹事会
 - 実施時期および主な議案等：
 - 6月1日 2012年度事業報告、2012年度決算について、役員選出等
 - 12月22日 同窓会役員について、課外活動奨励金審査結果報告、常磐大学創立30周年記念事業等
 - 3月29日 2014年度事業計画案承認、2014年度予算案承認等
2. 学生支援事業
 - 1) 学園祭への援助金(2013年10月)
 - 2) 常磐大学創立30周年記念寄附【学校法人常磐大学清澤幸雄奨学金寄附】(2013年7月)
 - 3) 常磐大学同窓会課外活動奨励金制度の実施(2013年10月)
 - 【奨励金給付団体】
 - ①「M4(エムフォー)」
 - ひたちなか市那珂湊地区で開催される「みなとメディアミュージアム」に参加し来場者対応や運営等のサポート活動の実施
 - ②池田幸也ゼミナール
 - 外国人の母子家庭への子供に対する学習支援ボランティア活動の実施
 - ③TEAM MASA
 - 視覚障害者がさわって鑑賞できる「触覚型展示資料」による「さわれる富嶽三十六景」の制作及び山梨県立博物館での展示解説の実施
 - ④地域政策研究会
 - 水戸市中心市街地及び笠間市において地・産・学連携体制を構築し、地域活性化に向けた情報を現地調査により収集し、広く発信するソフトの実用化を目指す
3. 会員への大学情報の発信
 - ・内容：会報「ときわの風」を発行し、会員へ送付
 - ・時期：第17号(2013年8月30日発行)
 - ※ 2014年2月に予定していた第18号は、次年度7月に予定している第19号と合併号として発行する。
4. 常磐大学同窓会ホームページの維持および管理
 - ・内容：異動情報受付等
5. 卒業生の個人情報管理
 - ・管理情報：氏名、学籍番号、住所、電話番号、勤務先、ゼミナール、サークル等
 - ・時期：随時更新

2013年度 常磐大学同窓会決算書

常磐大学同窓会財務部 (単位：円)

収入の部		決算額	予算額	差異額	備考
会費収入	12,720,000	12,860,000	△140,000	新入会員636名(新卒635名+既卒1名)	
事業収入	216,000	300,000	△84,000	懇親会費(72名)	
雑収入	48,986	100,000	△51,014	預金利息等	
積立金等運用収入	525,922	528,000	△2,078	積立金の運用に伴う利息	
小計	13,510,908	13,788,000	△277,092		
前年度繰越金	59,041,420	59,041,420	0		
繰越金	80,000,000	80,000,000	0	リテック社債、定期預金(大和信託銀行)	
小計	139,041,420	139,041,420	0		
合計	152,552,328	152,829,420	△277,092		

支出の部		決算額	予算額	差異額	備考
人件費支出	0	10,000	△10,000		
消耗品費支出	26,155	156,000	△129,845	印刷用紙、印刷機消耗品等	
交通費支出	17,200	125,000	△107,800	幹事会出席者(学外幹事)等交通費	
慶弔費支出	0	100,000	△100,000		
通信費支出	1,841,570	3,124,000	△1,282,430	会報等郵送料	
印刷費支出	282,224	960,000	△677,776	会報、封筒等	
会議費支出	839,594	970,000	△130,406	幹事会、総会等	
渉外費支出	0	20,000	△20,000		
業務委託費支出	204,324	252,000	△47,676	発送物袋詰作業等	
雑費支出	4,854	10,000	△5,146	振込手数料等	
支援事業費支出	841,860	2,200,000	△1,358,140	学園祭援助、学生課外活動奨励金	
寄附金支出	3,000,000	3,000,000	0	大学奨学金制度(大学30周年記念事業)	
小計	7,057,781	10,927,000	△3,869,219		
次年度繰越金	65,494,547	61,902,420	3,592,127		
繰越金	80,000,000	80,000,000	0	リテック社債、定期預金(大和信託銀行)	
小計	145,494,547	141,902,420	3,592,127		
合計	152,552,328	152,829,420	△277,092		

2014年度 常磐大学同窓会事業計画

月	事業内容
4	常磐大学同窓会課外活動奨励金(以下、課外活動奨励金)に関する事業 ・課外活動奨励金(以下、課外活動奨励金)募集(応募締切：学生プロジェクト奨励金5月末、スポーツ・文化活動奨励金2月末)
5	・幹事会(前年度決算報告、前年度事業報告)
6	・総会・懇親会(6月28日(土)開催)
7	・同窓会会報発送(第18号・第19号合併号) ・課外活動奨励金(学生プロジェクト奨励金)選考
8	・課外活動奨励金(学生プロジェクト奨励金)審査
9	
10	・学生支援事業(学園祭援助) ・課外活動奨励金(学生プロジェクト奨励金)授与式
11	・幹事会
12	
1	・同窓会会報(第20号)発送 ・課外活動奨励金(スポーツ・文化活動奨励金)選考
2	・課外活動奨励金(スポーツ・文化活動奨励金)審査 ・課外活動奨励金(学生プロジェクト奨励金)審査 ・課外活動奨励金(スポーツ・文化活動奨励金)授与式は2014年度5月に実施)
3	・幹事会(次年度予算案承認、次年度事業計画案承認)

上記の他、会員の個人情報管理および常磐大学同窓会ホームページ管理を行う。

(補足)
1. 課外活動奨励金事業の募集、選考および審査の業務は、常磐大学に委託する。
2. 同窓会会報に総会の議決内容および報告内容を掲載する。
3. 参考として裏面に課外活動奨励金の全体スケジュールを掲載した。

2014年度 常磐大学同窓会予算書

常磐大学同窓会財務部 (単位：円)

収入の部		本年度予算額	前年度予算額	差異額	備考
会費収入	13,160,000	12,860,000	300,000	2014年度新入会員(新卒653名+既卒5名×20,000円)	
事業収入	70,000	300,000	△230,000	懇親会会費収入(70名×1,000円)	
雑収入	100,000	100,000	0	預金利息等	
積立金等運用収入	528,000	528,000	0		
小計	13,858,000	13,788,000	70,000		
前年度繰越金	65,494,547	59,041,420	6,453,127		
繰越金	80,000,000	80,000,000	0	リテック社債、定期預金	
小計	145,494,547	139,041,420	6,453,127		
合計	159,352,547	152,829,420	6,523,127		

支出の部		本年度予算額	前年度予算額	差異額	備考
人件費支出	10,000	10,000	0		
消耗品費支出	149,000	156,000	△7,000	印刷用紙、印刷機消耗品、総会関係等	
交通費支出	85,000	125,000	△40,000	幹事会、総会教員交通費等	
慶弔費支出	100,000	100,000	0	慶弔関係	
通信費支出	3,129,000	3,124,000	5,000	会報、総会案内送付等	
印刷費支出	1,235,000	960,000	275,000	会報、封筒印刷等	
会議費支出	287,000	970,000	△683,000	総会、幹事会等	
渉外費支出	20,000	20,000	0	会報原稿執筆謝礼、取材先土産等	
業務委託費支出	236,000	252,000	△16,000	発送物袋詰作業、会報取材委託等	
雑費支出	10,000	10,000	0	振込手数料等	
支援事業費支出	2,200,000	2,200,000	0	学生課外活動奨励金、学園祭援助、支部活動補助等	
寄附金支出	0	3,000,000	△3,000,000		
小計	7,461,000	10,927,000	△3,466,000		
次年度繰越金	71,891,547	61,902,420	9,989,127		
繰越金	80,000,000	80,000,000	0	リテック社債、定期預金	
小計	151,891,547	141,902,420	9,989,127		
合計	159,352,547	152,829,420	6,523,127		

TSSSシステムの発足

『TSS』とは、Tokaiwa Student Staff の略称です。そしてTokaiwa Student Staff とは、「学生が学生の視点で主体的に企画する活動（『TSS活動』）」に積極的に参加する学生を指しています。

学生の「いろいろな経験を通じて、さらに充実した学生生活を送りたい。」という想いと、教職員の「大学生ならではのアイデアや意見を大学運営に積極的に取り入れながら、大学がより良い学びや活動の場となるように、学生と一緒に大学を盛り上げていきたい。」という想いをつなげて、『TSS活動』を実現するために、新たな取り組みとして常磐大学に誕生したのが『TSSシステム』です。

この取り組みにおいて、システムの事務局となっている学生支援センターの江原麻生統括にお話を伺いました。

『TSSシステム』は約1年間の準備期間を経て、2014年4月より本格的にスタートいたしました。システムの根幹を支えるのは、『TSS支援チーム』です。この新システムの運営に関わりたいと名乗りをあげた教職員15名、学生34名が支援チームのメンバーとなり、システムの土台を支える運営グループと、TSS活動を企画発信していく企画グループという2グループを構成して、TSSシステムを動かしております。

このTSSの仕組みが全学生へと大きく広がっていくためには、TSSへ登録する学生が増えること、企画グループから発信されるTSS活動が増えていくことが大切です。初年度の今年はまだ数える程度ですが、それでも春 semester中に7つの活動が登録され、動き出しました。TSS登録学生も、4月に行なった第1回の説明会だけでも、70名を超える学生が参加し、興味を持って登録説明に耳を傾けてくれました。6月に行なった第2回の説明会以降は、説明会の準備から実施まで、支援チームの学生たちが中心となっており、回を重ねるごとに登録学生数も伸びております。

初年度の取り組みが軌道にのり、TSS登録学生の増加とTSS活動の活性化が進んだら、いずれはTSS活動自体を学生たちが企画し、教職員がサポートしていく体制になればいいなと思っております。企画を思いつく柔軟な発想力と目的を実現する実行性を鍛え、協力・協調

この取り組みが全学生へと大きく広がっていくためには、TSSへ登録する学生が増えること、企画グループから発信されるTSS活動が増えていくことが大切です。初年度の今年はまだ数える程度ですが、それでも春 semester中に7つの活動が登録され、動き出しました。TSS登録学生も、4月に行なった第1回の説明会だけでも、70名を超える学生が参加し、興味を持って登録説明に耳を傾けてくれました。6月に行なった第2回の説明会以降は、説明会の準備から実施まで、支援チームの学生たちが中心となっており、回を重ねるごとに登録学生数も伸びております。

この取り組みが全学生へと大きく広がっていくためには、TSSへ登録する学生が増えること、企画グループから発信されるTSS活動が増えていくことが大切です。初年度の今年はまだ数える程度ですが、それでも春 semester中に7つの活動が登録され、動き出しました。TSS登録学生も、4月に行なった第1回の説明会だけでも、70名を超える学生が参加し、興味を持って登録説明に耳を傾けてくれました。6月に行なった第2回の説明会以降は、説明会の準備から実施まで、支援チームの学生たちが中心となっており、回を重ねるごとに登録学生数も伸びております。



▲ Tokiwa 研修の様子①



▲ Tokiwa 研修の様子②

常磐大学が茨城県および茨城県警察と連携

2013年度に常磐大学では、茨城県および茨城県警察と連携して、学生がさまざまな事業に参加しました。

茨城県との連携では、2013年11月16日に常陽藝文センターで開催された、内閣府・茨城県が主催する犯罪被害者等支援フォーラムにおいて、現代社会学科とコミュニケーション学科の学生19名が学生準備委員会として企画運営の役割を担いました。



▲ 学生指定討論の模様

事前の準備段階では、広報用チラシや啓発映像の制作に携わり、当日は、受付・総司会・学生指定討論者等の重要な役割を任せられ、「子どもと犯罪被害」という難しいテーマに対し、真摯に取り組む姿が見られました。

また、11月25日から12月1日の犯罪被害者週間には、学生準備委員会の学生が制作した啓発映像が、水戸駅南口の大型ビジョンで放映されました。

フォーラム当日では、富田信穂教授（常磐大学現代社会学科教授・常磐大学大学院被害者学研究所教授）がコーディネーターを務めたパネルディスカッションに、現代社会学科の学生2名が指定討論者として参加して「犯罪被害者」と関わりを持つ子どもへの支援をテーマに意見を交わされました。会場には教員を目指す茨城県内の学生たちが多数参加しており、被害に遭った子どもとの接し方の重要性

また、11月25日から12月1日の犯罪被害者週間には、学生準備委員会の学生が制作した啓発映像が、水戸駅南口の大型ビジョンで放映されました。



▲ 学生が協力して作成したチラシなど

この取り組みが全学生へと大きく広がっていくためには、TSSへ登録する学生が増えること、企画グループから発信されるTSS活動が増えていくことが大切です。初年度の今年はまだ数える程度ですが、それでも春 semester中に7つの活動が登録され、動き出しました。TSS登録学生も、4月に行なった第1回の説明会だけでも、70名を超える学生が参加し、興味を持って登録説明に耳を傾けてくれました。6月に行なった第2回の説明会以降は、説明会の準備から実施まで、支援チームの学生たちが中心となっており、回を重ねるごとに登録学生数も伸びております。

常磐大学学生が「水戸黄門まつり市民カーニバル」に参加

2014年8月2日（土）に開催された「水戸黄門まつり市民カーニバル」に本学学生52名と教職員等13名が参加しました。

4月に「地域社会活動への参加を通じて、学生の社会的経験を豊かにすると共に、イベントへの集団的組織的取り組みを通じて、相互に協力し活動する精神を養う」ことを目的に企画され、5月の連休以降、大学内の教職員学生の参加を募り、振付の決定、踊りの練習を行った上で参加しました。

実行委員会による周到な準備を中心に、学生は、当日着用した法被や鉢巻きのデザインも作成しました。



▲ 当日の模様

常磐大学吹奏楽団 同奏会2014開催!

吹奏楽団OB会である「TOKIWAおんぶの会」は、これまで演奏活動と現役学生への支援を行って30年が経過しました。記念の年となる今年、以下のおり演奏会を開催いたします。演奏会は今回で8回となり、近年は同奏会のような演奏会になるよう「同奏会」と題して開催しています。今回は、現役学生との合同演奏プログラムも用意しています。ぜひ会場ください!!

「TOKIWAおんぶの会創立30周年記念」

常磐大学吹奏楽団「同奏会2014」

■ 日 時 2014年11月29日（土）

■ 会 場 日立ビックセンター音楽ホール

茨城県日立市幸町1-21-1

TEL 0294-247711「入場無料」

TEL 0294-247711「入場無料」

■ 曲 目 ミュジカル「レ・ミゼラブル」より、

映画「アナと雪の女王」より、交響詩「ロマの松」より

■ お問い合わせ TOKIWAおんぶの会事務局

TEL 090-1662-3486（長南・人間13期）

課外活動奨励金を受けた学生の活動報告

6月28日(土)に行われた2014年度常磐大学同窓会総会の閉会後、常磐大学同窓会課外活動奨励金制度により2013年度に学生プロジェクト奨励金の給付を受けた4団体の学生による、成果報告会が開催されました。

M4 くみなとメディアアミューズ共同運営&TOKIWAまちなかラボ実施 人間科学部コミュニケーション学 増子詩織さん 他2名

M4とは、みなとメディアアミューズ(MMM) in水戸という名前の略称です。主に私たちはMMMの共同運営やTOKIWAまちなかラボの実施を行っています。MMMはひたちなか海浜鉄道湊線沿線で行われる今年で6回目のイベントで、アート作品の展示やワークショップなどが夏の約1か月間行われています。私たちはその中で地域ミーティングに参加し、地域の方と交流したり、アーティストの補助を行ったり、広報活動を行っています。TOKIWAまちなかラボは、ひたちなか市の那珂湊地区の商店街で毎月第3土曜日に行われるDONGHTマーケットという小さなお祭りを実施しているワークショップです。奨学金は私たちの交通費として使わせていただきました。



地域政策研究会 くまちなかガイドシステム「街知」の構築、コミュニケーション振興学部地域政策学科 栗田ますみさん 他2名

私たちは現在、水戸市・笠間市・地元IT企業と連携し、まちなかを案内するスマートフォンアプリを作成しています。今回の協働事業において、私たちはアプリに登録する情報の収集および登録作業の役割を担い、実際に街を歩いて、お店などの情報収集の活動を行いました。また、昨年、川越で行われた日本公共政策学会の学生コンペでこの取り組みのプレゼンを行い、最上位にあたる市長賞を受賞することができました。奨励金は、学生コンペ参加に伴う交通費や宿泊費、プレゼン内容をまとめるにあたって行った水戸市や笠間市を他の自治体と比較する調査経費、アプリの情報収集活動にかかった経費に使わせていただきました。



この制度は、常磐大学の発展および社会貢献に寄与できるものが期待できる学生の課外活動に対して、奨励金を給付し、同窓会活動に対する認知度や理解度の向上を目的として、2011年度に創設されました。

池田幸也ゼミナール く学習支援ボランティア、コミュニケーション振興学部ヒューマンサービス学 大隅彩香さん 他9名

この学習支援ボランティアは、水戸市役所から依頼を受け、私たちが所属する池田ゼミナールの先輩たちが始めた活動です。その活動を私たちが引き継ぎ、「学校の学習のサポート」と「学校生活に向けて関係作りのサポート」を目的とし、活動を行ってきました。支援を行ったのはガナ人と日本人のハーフの姉妹で、当時は高校1年生、妹は中学1年生でした。はじめのうちは勉強の仕方やコミュニケーションの取り方がわからず打ち解けるのに時間がかかりましたが、時間が経つにつれだんだん慣れてきて、それぞれに合った勉強法も見つけることができました。姉は苦手だった数学で赤点を取ることがなくなり、人見知りでも静かだった



TEAM MASA く触覚型資料「さわれる富嶽三十六景」作成、コミュニケーション振興学部コミュニケーション文化学科 埴真理子さん 他2名

TEAM MASAは、さわって鑑賞できるミュージアム資料の作成、展示を行っています。私たちは「すべての人の幸せ」というキーワードを大切に活動しています。私たちが作成している「さわれる富嶽三十六景」は、すべての人に世界遺産に登録された富士山の文化的側面を楽しんでいただきたいという願いから作成されました。視覚障がいをもつ方だけでなく、お子様からお年寄りまで誰もが指でなぞって、目で見て楽しく鑑賞いただけるよう工夫されています。作品はスウェルペーパーと呼ばれる、熱発泡カプセルがサンドイッチ状にはさまれた特殊な紙を使い、元の画像をモノクロ化し、用紙に印刷、加熱することで触覚型資料にすることができます。作成し



常磐大学「卒業生子女入試」が始まります！

卒業生の子(3親等以内の親族を含む)で、当該卒業生の推薦を受けた方が出願できる入学試験です。建学の精神や教育理念を深く理解し、本学への入学を強く希望する、意欲的な方を求めています。

試験日	2014年11月8日(土)
推薦できる方	常磐大学(大学院を含む)、常磐短期大学、常磐大学高等学校、智学館中等教育学校の卒業生
出願できる方	上記の卒業生の子(3親等以内の親族を含む)で、当該卒業生の推薦を受けた方

*上記の他に、出願資格があります。詳細はアドミッションセンター(TEL:029-232-2504, FAX:029-232-2743)までお問い合わせください。

健康栄養学科卒業生へ『栄養ケア・ステーション活動の担い手になる管理栄養士・栄養士募集中』

生活習慣病の予備軍が年々増加傾向にある中で、茨城県栄養士会は県民の健康づくりを積極的に支援するために「栄養ケア・ステーション」を開設し、県民のニーズに応えるため栄養ケア事業を実践できる人材育成・スキルアップ研修会を企画・実施しています。研修修了者には特定保健指導や診療所等の栄養相談、介護予防の栄養支援等の仕事を斡旋します。関心のある栄養士・管理栄養士の方、あなたの力を発揮してみませんか。内容の詳細については左記にお問い合わせください。



【お問い合わせ・お申し込み先】
公益社団法人 茨城県栄養士会
TEL: 029-228-1089
FAX: 029-228-4271

2013年度 体育会と文化連合活動報告

硬式野球部

春季戦績
 ○関甲新学生野球春季リーグ(3部中1部)
 常磐大学× 0-9 ○上武大学
 常磐大学× 4-15 ○東京学芸大学
 常磐大学× 2-11 ○埼玉学院大学
 常磐大学○ 7-6 ×作新学院大学
 常磐大学○ 13-0 ×埼玉学院大学
 常磐大学○ 5-4 ×平成国際大学
 常磐大学 雨天延期 ○平成国際大学
 常磐大学× 6-9 ○平成国際大学
 常磐大学△ 0-0 △平成国際大学
 常磐大学× 2-8 ○平成国際大学
 常磐大学× 4-7 ○白鷗大学
 常磐大学× 2-3 ○白鷗大学
 常磐大学○ 6-1 ×山梨学院大学
 常磐大学× 1-5 ○山梨学院大学
 常磐大学× 1-3 ○山梨学院大学
 ※4勝9敗1分 5位 1部残留
 秋季戦績
 ○関甲新学生野球秋季リーグ(3部中1部)
 常磐大学× 0-5 ○上武大学
 常磐大学× 0-4 ○上武大学

剣道部

春季戦績
 ○第45回関東女子学生剣道選手権大会
 1回戦
 伊師○×石川(宇都宮大)
 山口○×中野(津田塾)
 山口○×持田(関東学大)
 青木○×持田(関東学大)
 2回戦
 伊師○×小澤(家政大)
 山口○×渡辺(国士館)
 山口○×森井(東学大)
 3回戦
 山口○×森井(東学大)
 ○第68回国民体育大会茨城県大会
 1回戦

弓道部

春季戦績
 ○北関東学生弓道春季トーナメント
 大会：予選敗退
 (出場者)：小山 祥太、渡邊 春
 樹 神永 光 岡本 健太郎、山中 裕輔
 ○全関東学生弓道選手権大会
 (個人の部) 予選
 (出場者)：小山 祥太、岡本 健太郎、山中 裕輔
 (二次予選出場)：小山 祥太、山中 裕輔
 青木○×伊藤
 伊師○×末弘
 ○第14回関東女子学生剣道新人戦大会
 1回戦

吹奏楽団

秋季戦績
 ○北関東学生弓道秋季リーグ戦
 3部リーグ 女子団体
 常磐大学 14-7 足利工業大学
 常磐大学 14-6 足利工業大学
 常磐大学 不戦勝 足利工業大学
 3勝0敗
 2部リーグ3部リーグ入替戦 女子団体
 常磐大学 16-32 聖学院大学
 3部残留
 4月 入学式参加
 7月 水戸市芸術祭「市民音楽会」への参加
 オフキャンパスでのミニコンサート
 8月 全日本吹奏楽コンクール茨城県大会
 大職一般の部A部門 出場
 常磐大学&水戸ホーリーホッツ
 クラウドで 依頼演奏

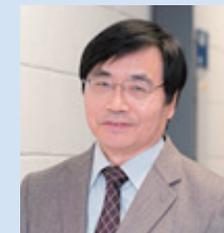
MESSAGE

社会に出ても理系の学びを

同窓生の皆さんお元気ですか。私は理数系の科目を担当してきていることもありまして、文系卒業生と理系の学びについて述べさせていただきます。常磐大学はどちらかといえば文系の大学なので、理系の学問やコースにはあまり興味を持たない人や敬遠する人も少なくないと思います。しかし、地球温暖化を含む環境問題、地震や地質に関する問題、原発や放射線の問題、エネルギーの問題、食や農業の問題、医療を含む生命科学の問題、電子機器を含めた情報通信の急激な発展の問題など、私たちが取り巻く社会環境には、どちらかといえば理系の問題が意外なほど多くみられるのではないのでしょうか。これらの問題の影響は一般の人が受けるのですから、専門家や政治家、行政に任せておけばよいというものでもないと思われまます。また、我々が子供の時は長距離走の時には水を飲んで

はいけないというようなことを教わっていたと思います。ついこの間まで体に良いといわれていた植物性の食用油の一部も、現在では健康上怪しいというところになってきています。専門家であっても時には間違えることもあるのです。さて、身の回りの問題の中で、最近活況を見せている再生エネルギーについて考えてみたいと思います。最近では、インターネット上で、アニメ映画「アナと雪の女王」の劇中歌について世界中が自慢のようにならぬ言葉、歌詞や歌い手を誇りに思い、また他国の言葉に関心を寄せるという状況が見られました。また、国内では、各地方の「ゆるキャラ」や「B級グルメ」についても盛り上がりが続いています。こういった現象と同じように、再生エネルギーについても各地域が特性を生かして競い合えば、地域はもちろん日本全体の将来ももっと希望に満ちたものになるのではないでしょう

うか。そんなに甘くはないといわれるかもしれませんが、地域振興や過疎対策となり得ると思いますし、茨城県でも、既に実績がある上に拡大予定の鹿島地域の風力発電や、県南のバイオマス等のほかに、未利用の工業用地での大規模太陽光発電が始まりつつあります。こういった情報は、情報大手のソフトバンクが自然エネルギーに参入した経緯もあり、関連会社から速報され、ある程度各地の競い合いのような状況が実現してきているようです。電力の固定価格買取制度がしばらくはまれば、また下火になってしまふ恐れもあるわけですが、住民がある程度の自然科学の素養に基づき見識を持って見守っていれば、国全体の判断も違ってくるのではないのでしょうか。電力価格の上昇や安定供給の問題への対処のほか、景観や環境への影響を最小限にとどめ、地域に利益や雇用がもたらされるようにするには、文系を含む一般の人が理科的な素



人間科学部長・教授 常磐大学同窓会顧問
三澤 進 先生
 筑波大学大学院物理学研究科博士課程単位取得退学。理学博士 専門：物性理論物理学、複雑系科学

養も得て参加したり関心を寄せたりすることが絶対必要なのだと思います。タイトルに書いた学びという言葉は重すぎるかもしれませんが、学校の勉強としてではなく、自分の問題として捉えて学ぶと、意外に興味を持てたりするものです。日本の庶民は大変な困難であった黒船来航時にも好奇心をもって臨んだともいわれています。まずは、好奇心をもって接するのが一番良いような気がします。さらに、相反する見方のある分野では、できるだけ両方の主張を知った上で、ご自分で判断されるようにしていただければと思います。皆様のご健勝をお祈りしております。

掲載文募集

同窓会事務局では、会報「ときわの風」に掲載する会員の皆さまからの投稿を募集しています。日々の雑感・近況報告などを常磐大学同窓会事務局または、お寄せください。(編集の都合上 dosokai@tokiwa.ac.jp)

「ときわの風」へのご意見を募集しています。

常磐大学同窓会事務局は、会員の皆様に大学の情報、同窓会活動の情報をお届けするため「ときわの風」を編集・発行しております。しかしながら、会報が会員の皆様のご期待に届いていないのか、また会員の皆様が会報を通じてどのような情報を求めているのかを知りたいと考えています。

会報に対するご意見・ご要望など、どんなことでも結構です。常磐大学同窓会事務局までメールにてお寄せください。同窓会事務局として、寄せられたご意見・ご要望にお応えできるよう検討していきたいと思っております。 dosokai@tokiwa.ac.jp

編集後記

今年もエルニーニョの影響で、冷夏となる予想もどこへやら、梅雨入り前前から暑くなり、梅雨入りによって一旦暑さが収まったと安心していましたが、梅雨が明けてみれば、更に暑い。例年にならぬ暑さが続いている。ここ数年の気象は、前例が参考とならない状況のようで、気象庁の発表も余り当たってはいない。気象だけではなく、社会も変化を続け、自身の業務でも前例に縛られることなく、いろいろな視点で考えなくてはならないことが増えてきたように思える。この同窓会のことから考える場合でも同様のことがいえると思う。いろいろなことを考えるためにも、会員の皆様の生の声が聴きたいと思う今日この頃である。(久)